

第1回 長野県 ICT 学び推進協議会 議事録

R5.5.16

学びの改革支援課

1 日時

令和5年5月16日(火) 13:30~15:00

2 実施方法

Web 会議による

3 参加者

【信州大学】東原名誉教授、島田教授、佐藤准教授、両川公認心理士
【塩尻市立榑川小中学校】山本校長 【小川村立小川中学校】小林校長
【箕輪町立箕輪西小学校】佐藤教諭 【須坂市立東中学校】新井校長
【長野市立朝陽小学校】舞澤教諭 【佐久市立中込中学校】瀬下教諭
【信州大学附属松本中学校】川上教諭
【長野市教育委員会】末松様 【須坂市教育委員会】北村様
【佐久市教育委員会】菊池様 【小諸市教育委員会】小林様
【上田市教育委員会】藪様・西原様 【松本市教育委員会】上兼様
【塩尻市教育委員会】島津様 【安曇野市教育委員会】宮田様
【駒ヶ根市教育委員会】滝澤様 【飯田市教育委員会】櫻田様
【小川村教育委員会】竹村様 【木島平村教育委員会】芳川様
【信濃町教育委員会】北村様 【御代田町教育委員会】清水様
【箕輪町教育委員会】藤田様 【根羽村教育委員会】下井様
【学びの改革支援課】白井課長、細江係長
【北信教育事務所】宮崎指導主事 【東信教育事務所】白井指導主事
【中信教育事務所】橋爪指導主事 【南信教育事務所】佐藤指導主事
【総合教育センター】岡宮専門主事、北原専門主事
【DX推進課】永野課長
【長野県自治振興組合】木我様
【県教委】松坂指導主事、五味指導主事、大日向指導主事、畠山主査

4 内 容

(1) 開会あいさつ

【白井課長】

- ・本推進協議会は令和3年度より学びの改革支援課内に設置された長野県 ICT 教育推進センターを含む長野県の ICT を活用した学びの方向性を検討する役割を担っており、今年度で3年目を迎える。
- ・昨年同様センター長は信州大学教育学部・次世代型学び研究派開発センター長の島田英昭先生に担っていただき、専門的な知識を持つ有識者の皆様や先進的に取り組む市町村教育委員会担当者の皆様、また、学校の先生方と ICT 環境の整備や職員研修の充実を目指し、教育委員会全体で ICT 教育の推進に取り組んでいるところ。
有識者の東原先生、佐藤先生には県内はもとより全国で活躍されている大変お忙しい中お力添えをいただいている。特に昨年度はオンラインで授業配信をしながら指導助言いただき大変有意義なものになったと考えている。
また両川先生におかれては、特別支援教育課と連携いただき、現場のニーズにこたえる研修の開催等お力添えをいただいている。
- ・本年度は本県の ICT 教育に関する教育水準の向上を図るとともに、文部科学省のリーディング DX スクール事業も有効に活用したいと考えており、関係する小中学校にも参加いただいている。
- ・また、令和5年度は「子供たち全員が問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる。」と目標を設定し、クラウドによる授業改善がさらに一層進んでいけばと考えており、本日はそのあたりについてもご意見をいただき、協議いただければと思う。

○有識者及びセンター長紹介

【五味指導主事】

東原名誉教授（座長）、島田教授（センター長）、佐藤准教授（有識者）、両川公認心理士（有識者）を紹介。

○「長野県 ICT 学び推進協議会」の説明

<令和5年度長野県 ICT 教育推進センター及び ICT 学び推進協議会について>

【五味指導主事】

- ・今年度も信州大学の島田教授をセンター長に迎え、また、有識者の先生方や学校や市町村教育委員会で先進的な取組をしている先生方から助言、情報提供をいただきながら ICT 教育推進センター及び ICT 学び推進協議会を運営してまいりたい。

<リーディング DX 校事業について>

【五味指導主事】

- ・今年度、文部科学省のリーディング DX 校事業の指定を受け、学びの改革パイオニア校を軸に実践を進めている。学校とすると須坂市立東中学校、箕輪町立箕輪西小学校、小川村立小川中学校。

- ・先月、指定校を含めて第1回の情報交換会を行い、現在、有識者の先生等の訪問やオンラインでの公開授業に向けた計画を進めているところ。来月には第2回の情報交換会を開き、計画から実践のフェーズに進めていきたい。
- ・公開授業については昨年度県内4地区で開催したオンライン公開授業のように広く発信できる形を考えている。

【佐藤准教授】

- ・リーディングDX校事業の事業化の背景としては、自治体間で端末活用に大きな格差があるため、効果的な実践事例を創出したり、モデル化し広げていきたいと思いますという考えがある。リーディングというのは「リードしていく」という意味のリーディングであり、全国に100か所モデル校を設けている。その中で長野県は3市町村が採択されている。
- ・端末活用、クラウド環境活用にて実施する内容が五つあるが、一番目の令和の日本型学校教育で言われている「個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実」が大きな目標ということになる。また四番目の「校務の徹底的な効率化」も非常に大事だといわれている。教員の働き方改革を進めていこうという割には、職員会議を未だに紙でやっているというところも結構ある。そういったところを見ていると働き方改革も難しいと言わざるを得ない。
- ・そのような学校がある中で、リーディングDXも大変期待されている。また何か情報提供できそうなことがあればお伝えしていきたい。

<GIGA スクール運営支援センター事業について>

【島山主査】

- ・今年度については、「GIGA スクール運営支援センター連携協議会（仮）」を連携自治体内に設置することが必要となっており、それに参加することが連携実施型の要件となっている。また、この連携協議会（仮）は「ICTの活用に特化している協議体であれば既存のもので構わない。」ともされている。
- そのため、今年度は、この「長野県ICT学び推進協議会」を「連携協議会」に位置付け、連携自治体の皆様にも参加いただいている。
- ・また、本会議終了後に情報交換会を行うので、連携自治体の皆様は引き続きご参加いただきたい。

(2) 協議（司会：島田教授）

1) GIGA スクール構想の実現に向けた最新情報と令和5年度のポイント

【東原名誉教授】

- ・国の動向を二点お伝えしたい。

<高校の情報教育について>

- ・この会は小中学校が中心だが、県のICTを進めるという意味では、高校の先生を対象に作られた動画をぜひ小中の先生にも見ていただきたい。中学3年生でもわかる形となっている。高校の情報Iが大学入試にも関わる時代となり色々話題になっている。長野県は高校の情報の免許をきち

んと持っている人がいるかどうかということだが、なんとか文部科学省としては情報が充実するように様々な対策が打たれている。

- ・NHKの高校講座でも文部科学省も一緒になって作っている。そういう中の一つに高校生にお伝えしたいメッセージを、インターネット構築にも携わられた慶応大学の村井純先生が授業されることとなった。授業会場が飯田高校となり、聞いた高校生が今後どのように生きていくべきか、あるいは勉強すべきかということとはとてもよく伝わったと思う。この動画をぜひ皆様にもご覧いただきたい。また高校情報のメルマガを取られている方は最新のメルマガの記事がこの記事を紹介しているのでご覧いただければ。

<次期端末更新と端末稼働率について>

- ・5月11日に国会議員の皆さんとの勉強会に参加。そこで話題になっていたのが次期GIGA端末の更新のことで、早いところではあと2年くらいで更新が始まっていくが国の予算がとれるかということ。
- ・国会議員の皆さんに努力いただくのは当然だが、財布の紐を固く締めている人たちに対し、紐を緩めていただく仕組みが必要。その中で重要になるのが、現在導入されている端末がきちんと使われているという稼働率になってくる。
- ・指導要領によれば、個別最適な学びや協働的な学び、対話的な学びでGIGA端末を使ってほしいとされているが、文部科学省の調査では児童生徒が対話的な学びで端末をほとんど使っていないことが指摘されている。長野県では、ほぼ毎日対話的な学びにGIGA端末を使っているといえるところは、小学校、中学校で大体10%くらいしかない。この割合を増やしていかないと次期更新が難しいということになる。
- ・自身が住んでいる南信地域でも稼働率にバラつきがある。先ほどのリーディングDX校事業が良い影響を及ぼしつつ広まってほしいという思いはあるが、稼働率が極端に低い市町村に対しては何らかの手を打っていかねば中々稼働率を上げるのは難しいのでは。
- ・長野県の場合は各教育事務所に指導主事の先生が頑張ってICTのことも対応してくださっている。しかし、この稼働率のことを少し意識いただき、全ての市町村が低稼働率から脱出できないとまずいと思うので、今年目標の一つにしていいただければ。
- ・先ほどの高校の「情報」の免許取得の話の中で、免許を持っている人の割合について長野県は少し話題にされた。これと同じことが端末稼働率の話題でも想定され、今後端末更新をやろうと思った時に、端末稼働率の低い県でやはり長野県じゃないかみたいなことは絶対言われたくない。稼働率を上げていくことを一年頑張らなければ厳しいかと思うので、ぜひ、そのようなところを意識していただければと思う。

2) 令和5年度目標案の提示

【松坂指導主事】

令和5年度目標「子どもたち全員が問題発見・解決の過程でクラウドを活用できる」

- ・GIGA端末を使い始め、クラウドの活用が当たり前になりつつある中で、順調に進んでいるところ、そうでないところの地域間格差があるということが課題。
- ・授業観（マインド）を変えていくためには、問題の発見・解決の過程でクラウドが位置付いてい

っていただけると非常にありがたい。現在のような予測不可能な時代の中で力を発揮できる子供たちであってほしい。そのようなことを踏まえながら、目標を考えた。

3) 市町村教育委員会や現場の先生方より自己紹介及び取組の紹介

【塩尻市立木曾檜川小中・山本校長】

- ・本校も今年度は発表と実践の報告を促していくことをしているが、肩肘張らない ICT の活用ということでスタートしている。
- ・1年生が「校長室探検」というものを行った際に全員 iPad をもって校長室にきて iPad に書いてある自分の質問事項を選んで質問したり、iPad に記録したりしていった。すでに小学校1年生からその様な感じで活用できていることは、ICT の文房具化を進めている立場からすると、実際に文房具として活用されているところにうれしさを感じた。

【小川村立小川中・小林校長】

- ・リーディング DX 校ということで加配教員をいただき、専門的に研究を進めている。現在、小川村と長野市の中から協力校を選んでいただき、その学校とオンラインで授業を行う段取りを進めている。
- ・個別最適な学びと協働的な学びの一体化という部分でどうしても一斉授業から脱却できない部分がある。テスト、入試、成績のことを考えたうえで、現在の一斉授業を残した方がいいのではという思いもあり、思い切れてできていない段階の授業が多い。
- ・また、市町村を越えたオンライン授業ということで、例えば Google のクラスルームが使えない等、色々な壁にぶち当たっているところなので、今後も相談しながら進めていきたい。

【箕輪町立箕輪西小・佐藤教諭】

- ・今年度からリーディング DX 校の指定をいただいている。箕輪町では7年前から東京学芸大学の高橋純先生をお呼びし、ICT セミナーを開催してきた。今年度からは同大学の太田龍太郎先生をお呼びして、DX セミナーを行っていきたいと考えている。今年度は3回を予定しており、12月の回については全学校の教員が参加することとなっている。
- ・研修視察については、昨年度愛知県春日井市で日本教育工学研究大会が行われ参加した。今年度は青森県八戸市で行われるとのことなので、参加して研修を深めてまいりたい。
- ・また、校務の DX 化に関しては、先進的に取り組んでいる春日井市の高森台中学校に夏休みに行き研修を受ける予定。徐々に授業の DX 化や校務の DX 化を図っていきたいと考えている。

【須坂市立東中・新井校長】

- ・子供たちはかなりの頻度でパソコン、タブレットを使っている。例えば、4月の生徒総会では議案書を紙で配るのではなく、タブレットで共有して議論を行っていたり、委員会の時間もタブレットを持ち寄って委員会の資料提供をしたりしている。また、授業の中でも、自由進度学習がかなり進んでおり、タブレットを使いながら様々な情報を得たりしながら行っている。

【長野市立朝陽小・舞澤教諭】

- ・今年度も音楽と外国語を担当している。自分の授業の中では100%タブレットを毎回使うようにしているが、外国語は特にデジタル教科書も入ってきており、子供たちの予習復習にも使えるようになってきた。昨年度末から長野市ではSharePointというクラウドを使えるようになっており、校務系もすべてクラウドを使うようになった。子供たちはタブレットやクラウド等に慣れてきているが、やはり先生たちがクラウドの活用に高いハードルを感じているということを実感している。
- ・また、iPadの活用が進むごとに情報モラルがどうしても課題となってきている。一律的なルール作りがちだが、子供たちがいかに実用的な使い方ができるようになるかを工夫しながらルール作りを進めている。県教委から「GIGA ワークブック信州」というものが出てきているので、その使い方を模索し、先生たちと相談しながら進めていきたいと考えている。

【佐久市立中込中・瀬下教諭】

- ・今年度から校内で研究主任をさせていただいていることもあり、学校全体でタブレットを活用した授業を作っていくということが全体に働きかけやすくなった。さらに、情報教育の主任を今まで私がやってきたが、私以外の先生に引き受けてもらい、相談しながら進めていくという形で仲間が増えてきているということを実感している。
- ・また、佐久市では今年度、事務職員等も含めて全職員にタブレットの配備がされたため、会議等をペーパーレスで行うことができるようになった。そのような環境が整ってきていることもあり、先生たちの端末利用への意識もすこしずつ向上しているかなと感じている。
- ・一番大きいのは、今年度入ってきた初任者の先生が、大学でかなり先進的な使い方を学んでおり、授業の中で私も今まで使ったことのないツールを使いこなしている。そのような使い方を広げていきたいと考えている。

【信州大学附属松本中・川上教諭】

- ・前任の松本市立清水中ではGIGA端末が導入され、情報の先生たちと一緒にどのような使い方ができるか考えるということをしてきた。清水中では校務のデジタル化までは進んでいなかったが、付属中では職員にiPadが支給されているため、スラックを使ったペーパーレス化、業務の効率化が図られている。
- ・生徒たちも自然にタブレットを使用しており、すぐに使う環境が整っているなど感じた。授業の方ではもう少し活用できるか考えているが、今後一緒に学ばせていただければと思う。

【長野市教委・末松指導主事】

- ・長野市では先ほどのおりSharePointを使って校務のクラウド化を進めている。ただ、セキュリティポリシーの問題があったり、活用と情報モラルという、相反する課題があったりと、現在色々と整備しているところ。
- ・学校現場では、市の研究会を皮切りにMicrosoftのTeams等と使用して実践事例を挙げる・集める等取組を行っている。また、ICT支援員としてスクールパートナーズさんとも協力して

いきながら、効果的な事例や活用方法を集め共有していきたい。

- ・課題とすると、まだ学校ごとに ICT の活用についての差があると考えている。

【須坂市教委・北村指導主事】

- ・須坂市では昨年度の目標である「子供たち全員がクラウドによる同時共同編集ができる」については大方の学校がクリアしている。ただ、日常的に使っている学校とそうでない学校の差がやはり大きいという課題がある。ぜひ日常的な普段使いができるように支援をしてまいりたい。
- ・指導主事という立場で各学校を訪問し、授業等に参加している。そのような中で 1 人 1 台端末の活用状況を見たり学校の課題等について相談を受けている。今年度は先ほどの目標にもあったように、問題解決の過程の中で、小学校低学年でももっと活用できるような状況を作っていきたいと考えている。

【佐久市教委・菊池指導主事】

- ・令和 4 年度については生活のあらゆる場面で、1 人 1 台端末の利活用を進めることを取り組んできた。学校間に差はあるが、Google Form を使った保護者からの出欠連絡等、授業の中に関わらず活用の場面が増えてきている。
- ・また先生たちの使用状況や困り感等をキャッチするために、市の学事職員会議では情報教育委員会、ICT プロジェクト委員会、システム管理者の方に参加してもらい、市内の情報教育に関する環境を整えている。
- ・今年度ようやく佐久市でも、校務支援システム（C4th）の導入や大型提示装置の通常学級への導入が進んでいるところ。それに合わせて現状のガイドライン、セキュリティポリシーを改定式ながら、今年度は少しでも他の自治体に追いつけるように先生たちと歩んでいきたい。

【上田市教委・藪指導主事】

- ・上田市では小学校、中学校ともにだいぶ端末の活用が進んできている。昨年 12 月に行ったアンケートでは小学校で 53.4%、中学校では 74.3% が端末を毎日使っていると回答されていた。今年度は昨年度に引き続き、1 日に 2 回以上利用するという目標をしながら、活用の中身をもう少し考えていきたい。
- ・全体的には使っているものの、「この学習では使う」という使い方がやはり多く、先ほど東原先生の話にもあったような対話的な学びにつながるような活用の仕方というのはまだまだ追いついていないところもある。そういった意見交換や考えの共有等をしてしながら、深い学びにつなげていくという活用をぜひ進めて参りたいと考えている。

【松本市教委・上兼指導主事】

- ・松本市教育委員会では 2 つの委員会を設置している。1 つ目は「1 人 1 台端末活用検討委員会」。各校から選出された先生が集まり、どのような活用ができるかを考えているが、昨年度までは「1 人 1 台端末をもっと使いましょう」だった。しかし、今年度は個別最適学びと協働的な学びを一体に進められるような端末の活用に対し焦点を絞った状態で進めている。

- ・ 2つ目は「ICT 利用活用検討委員会」。教師間や学校間の差をどう埋めていくか、またどのように活発にしていくかを検討している。
- ・ 松本市では今年度から教職員研修センターが立ち上がったので、講座の一つとして、情報モラル研修、デジタルシティズンシップ研修等を設けて先生方に参加してもらうように整えている。また、校務支援システム（C4th）を導入しているが、その中の Home & School を使って欠席連絡や給食の献立表の配信を今年度から始めた。

【塩尻市教委・島津指導主事】

- ・ 塩尻市では GIGA 運営支援センターというものを立ち上げ、各校の端末、アカウントの管理、やヘルプデスク機能を持たせ効果的な活用をしたいという時にいつでも対応できる体制を整えた。
- ・ また、各校にいる情報教育推進委員の先生たちを中心に ICT 活用週間を前期と後期それぞれ 1 週間～2 週間設け、ICT の効果的な活用、実践事例の共有に取り組んでいる。そこでは私のような情報の指導主事や ICT 支援員が常駐し、気軽に相談できる環境を整えながら先生たちの困り感や悩みも聞いている。市全体で端末活用に取り組み推進に取り組んでいければと考えている。

【飯田市教委・櫻田指導主事】

- ・ 子供たちを誰 1 人取り残さないために、先生方を誰 1 人取り残さないということを心がけていきたいと考えている。そのためにポータルサイト、サポートサイト、チャット機能を充実させていきたい。
- ・ また、下伊那地区 14 市町村の連携を強め、数年後には GIGA スクール運営支援センターを、自治体をまたいで設置出来たらいいなと考えているところ。
- ・ 先ほど話題に出ていたデジタルシティズンシップでも少し実証を進めていきたいと考えている。ここでは紹介しきれないが市のサポートサイトに資料を掲載している。通常は飯田市の先生のみサイト閲覧の権限を付与しているが、本協議会の先生方であれば権限付与申請いただければ見られるようにするので、ぜひ申請を。

【小川村教委・竹村教育次長】

- ・ 本年度から小川中がリーディング DX 校ということで参加させていただいている。村としてはデジタル教科書の導入や AI 教材の導入等を行ってきたところ。学校の先生方と連携しながら進めていきたい。

【箕輪町教委・藤田指導主事】

- ・ 箕輪町では昨年から教育委員会内に教育 DX 推進センターを設置し、3 人の ICT 支援員が常駐している。3 人中 2 人は各校に入り授業も一緒に行い、1 人はハード分野の支援をしてもらっている。
- ・ また、サポートティーチャーの方に各校を回っていただき、一緒に授業をしながら子供主体の授業の実現のため、実践を通じながら行っている。

- ・このような状況の中で町教委として学校の活動をバックアップしていきたい。

【島田教授】

- ・皆様のお話は大変参考になるお話しなので、このように他の市町村の事例について情報交換が行える会として本協議会はとても有意義だと思う。

(3) 充実した利活用に向けた取組

1) 長野県 ICT 教育推進センター **【出前講座】**

【五味指導主事】

- ・今年度は「教育クラウドを活用しよう」をテーマに出前講座を実施予定。授業を見て内容を加えながら出前講座を実施していきたい。チラシについては各市町村教委、学校に通知済。

2) 特別支援教育課 **【令和5年度の取組について】**

【大日向指導主事】

- ・令和年度はインクルーシブ教育推進部会ということで、年4回、2時間程度のオンラインミーティングを行い、ICT利活用の事例発表や情報交換を行った。また、4回の部会とは別に体験型研修や1年間のまとめとなるフェスティバルも開催。
- ・様々な学びの場でICTを活用したインクルーシブの教育が実践できたこと、クラウドの活用にチャレンジできたこと、通常の学級においては、複数の教科での実践を積み上げつつあること、部活動でのICTの活用にもチャレンジしていること等、部会に参加されている先生方が楽しみながら、日々の実践を進めてこられたことが成果として挙げられる。
- ・今年度は、令和4年度の課題を基に、クラウドの効果的な活用等による支援を充実させていきたい。また、昨年度の部会メンバーに引き続き、新たなメンバーを募り、部会の取り組みを広く周知していきたいとも考えている。

【両川公認心理士】

- ・大日向先生にお話いただいた内容で進めていきたい。さらに、障がいのある方や様々な立場の先生方も仲間に入っていただければと思っている。また、東原先生をはじめとした有識者の方々、協議会の先生方にもぜひご協力いただいた上で進めていければ。

3) 校務視線システム (C4th) の価格改定について。

【キッセイコムテック (株)・北垣様】

- ・令和6年度からの料金改定について考え方等を説明。

(4) 今回のまとめと次回検討項目の整理

(授業改善や児童生徒の資質・能力に役立つ実践事例の報告や紹介、情報交換)

【松坂指導主事】

- ・上田市教委にお聞きしたい。今日の発表の中で、「日常使いが進んできている」というお話があったが、昨年等と比べて進んできている要因等があれば教えていただきたい。

【上田市教委・藪指導主事】

- ・中々これがというのは難しいが、ICT 支援員が4校に1人おり、常駐日が週に1回あるため、分からないことをその都度相談できるというのは非常に大きい。
- ・また、GIGA スクールオンライン研修会で、実践的な使い方を各校に宣伝したり、見ていただいているといった取組が少しずつ実を結んでいるかなと感じている。

【松坂指導主事】

- ・ICT 支援員とはどのくらい情報交換等がされているのか。

【上田市教委・藪指導主事】

- ・昨年度は3週間に1回の割合で定期的に情報交換会を行っていた。今年度はもう少し間をあげ、4週間に1回の割合で行っていきたいと考えている。

【松坂指導主事】

- ・飯田市教委にお聞きしたい。私が県内市町村を回っている中で一歩進もうという雰囲気が飯田市周辺では強く感じる。そのような雰囲気はどのように作っているのか。また、周囲の市町村教委とどのような連携をして進めていこうとしているのか。市町村間連携の話はこれから県内の他の地域でも出ることが想定され参考にもなるので教えていただきたい。

【飯田市教委・櫻田指導主事】

- ・飯田市を含め、下伊那地域は14市町村あるが、かなり市町村間の差がある状態。そこを何とかしたいということで、飯田市と喬木村がリーダーシップを取りつつ、14市町村のICT担当者に声をかけ年に2回ずつ会議を開いている。
- ・その中で情報交換や情報共有を行っているが、今年度はもう少し頻度を増やして行ってきたい。また、実際に集まれない時でもチャット等で情報交換できる仕組みを作っていきたい。

【松坂指導主事】

- ・飯田市内の学校でGIGA 端末の日常使いが伸びてきたり、授業改善等が伸びてきている感触のある学校はどのようなことをしているか教えていただきたい。

【飯田市教委・櫻田指導主事】

- ・飯田市内の学校を回っている中で、すごく伸びてきていると感じたところは、令和3年度に東原先生に学校の状況を見ていただき、1年間で管理職まで含め目標設定した上で一緒に授業づくりしていただいたところが多い。現状を評価して終わりではなく、目標設定して管理職も含めて一緒にやっっていこうというスタンスが大事と感じた。

- ・方法とすると、まず何も言わずに全校全クラスを見せてもらったうえで、東原先生、私、校長先生、情報担当の先生で懇談をし、困りごと、目標設定等を打合せしてから 2 回目以降の訪問をするといった方法で行った。

【島田教授】

- ・子供同士のやりとりで端末を使うということについて、多分「なんで対話しなければならないのか。」という疑問をもたれている方もいるのではないかと思う。さらにそこで「なんで ICT を使わなければならないのか。」ということも。
- ・これは学習観の違いと思っており、「一斉に何か情報を伝える」ことは効率よさそうに見えて、産業革命以降、たまたま上手くいっていたやり方なのかと。歴史的には 200 年くらい。では本当に「学ぶ」とは何かというと、「対話」が大きな手段なのではないかと思う。
- ・対話で質問するには自分の知識を使わなければならないし、同じ立場の人と対話することによって相手の考え方や上手な学習の仕方を学ぶことができる。先生方同士でもよく情報交換することがあると思うが、対話は学習の大きなツールであり、そのような環境を授業で作っていくことが大事と感じた。

【東原名誉教授】

- ・村井純教授のプロモーションビデオを紹介。

(5) 閉 会

【細江義務教育指導係長】

- ・お集りの皆様には熱心な協議をいただき大変感謝。本日、義務校長研修というものがあつた。その中で「新しい時代に求められる新しい学び」というのが話題の中心だった。特にキーワード的に出てくる「個別最適な学びと共働的な学びの一体的な充実」や、「一人の子供も取り残されない、多様性を包み込む学び」等の言葉は、皆さんもよく耳にするのではないか。そのような「新しい時代に求められる新しい学び」のことは、いずれも ICT の活用とセットで語られている。
- ・校長研修の講演の中では、「ICT 活用を基盤として」といった言葉も出ていた。新しい時代の学びを成り立たせるためには、ICT がなくなるともうダメなのではないかかというくらい重要性が高まってきている。
- ・ここにお集まりの皆様は、長野県の ICT の学びの先駆者であり、そして今後中核になっていく皆様だと思っている。そういった ICT の学びに対する重責をぜひやりがいというふうに捉えていただき、無理のない範囲でできることを一つ一つ進めていっていただきたい。